

放課後児童クラブの現状と課題

—三重県 A 市における調査から—

南 泰 代

放課後児童健全育成事業は、小学校に就学している子どもであって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、授業の終了後に児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与え、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、その健全な育成を図る事業である。放課後児童クラブは全国的に増加しているが、各地域、各施設での課題は様々である。三重県は国土の真ん中にあたり、森林率も平均に近い県である。北勢は名古屋市のベッドタウンになり、南勢は過疎地域を抱える全国的にも平均的な県である。この地域の放課後児童クラブを調査をすることで、各地域、各施設の現状と課題を考える。特に、指導員について調査する。そのことで、さらに児童の適切な遊び及び生活の場を与えることができると考える。

キーワード：児童、指導員、保護者

After-school child sound upbringing services are project to promote the sound development of elementary school children, whose guardians are not at home during the daytime due to work or other reasons. The project provides after-school children an appropriate place to play and live, based on their situation and developmental stage, at facilities such as child welfare facilities.

Although each region and facility faces various issues, the number of after-school children's clubs has been increasing nationwide. Mie Prefecture is an average prefecture located in the middle of Japan and the forest ratio is close to the average. The northern part of the prefecture is a bedroom community of Nagoya City, and the southern part is an underpopulated area. We have surveyed the after-school children's clubs in this prefecture and discussed the current status and issues for each area and each facility. In particular, investigate instructors. This survey would further enable us to provide appropriate places for children to play and live.

Key words : Child, Instructor, Guardian

1. はじめに

(1) 研究の背景

放課後児童健全育成事業は、児童福祉法第6条の3第2項に基づき、小学校に就学している子どもであって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、授業の終了後に児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与え、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、その健全な育成を図る事業である。放課後児童健全育成事業の運営主体及び放課後児童クラブは、児童の権

利に関する条約に基づき、子どもの最善の利益を考慮して育成支援を推進することに努めなければならない¹⁾。

厚生労働省では、2021年度末までに約25万人分を整備し、2019年度から2023年度までの5年間で約30万人分の整備を図ることとしている。登録児童数は、2019年1,299,307人より11,701人増え、1,311,008人である。放課後児童クラブ数は、2019年25,881か所より744か所増え、26,625か所になった。これは、2015年4月から対象児童を「おおむね10歳未満」から6年生までに変更になった

ことも大きく影響した。放課後児童支援員等の数は165,725人、うち放課後児童支援員の数は95,871人、うち認定資格研修を修了した者の数は86,677人、うち補助員の数は69,854人である。放課後児童支援員の主な資格の状況は、保育士は24.9%の23,917人、高等学校卒業者等で2年以上児童福祉事業に従事した者は33.1%の31,727人、教育職員免許状を有する者は25.5%の24,461人である。平日18時半を超えて開所しているクラブ数は57.8%の15,386か所、長期休暇中等に開所しているクラブ数は56.2%の14,866か所である²⁾。

(2) 放課後児童クラブの基準

専用区画の面積は児童1人につきおおむね1.65㎡以上である。放課後児童支援員を支援の単位ごとに2人以上を配置（うち1人を除き、補助員の代替可）、保育士、社会福祉士等であって、都道府県知事が行う研修を修了した者であることとされている。平日は原則1日につき3時間以上、土日祝日・長期休業中等は原則1日につき8時間以上である。原則1年につき250日以上、児童の数はおおむね40人以下とされている³⁾。

(3) 放課後児童クラブの経営

収入にあたる1年間の負担金の合計は800万円、支出にあたる放課後児童クラブ支援員への人件費は2,200万である。2017年度予算は725.3億円、2018年度予算案は799.7億円である⁴⁾。

料金例は市や区が運営している施設は、基本料金月4,000～6,000円、延長料金30分200円、おやつ代月1,500円である。平日は18時まで、土曜日は8時30分～18時までである。NPO法人が運営している施設の利用料金は、入所金（登録時のみ）10,000円、おやつ込みで基本料金月10,000円と高い。平日は19時まで、土曜日2,000円、朝8時～19時までである。株式会社は、8月の料金設定を週5日、朝7時半～19時までで55,000円（月間）である。各規模の対象児童数は、小規模は10人以上19人以下、標準は20人以上40人以下、大規模1は41人以上80人以下、大規模2は81人以上120人以下、大規模3は121人以上である。補助額は、小規模は4,538,000円/年、標準は5,507,500

円/年、大規模1は7,562,400円/年、大規模2は11,793,600円/年、大規模3は16,024,800円/年である。

都会の常勤職員の給与及び勤務条件は、月額209,000円又は年額2,508,000円、1日6時間、週6日又は1週36時間以上である⁵⁾。地方では、167,000～230,000円、パートは保育士・教員免許状有は900～1300円、資格無は850～1000円が多い。そのため、指導員の募集をしても集まらず、また、2～3ヶ月で辞める人も多い。

(4) 放課後児童指導員の活動内容

厚生労働省によると、①子どもの健康管理、出席確認をはじめとした安全の確保、情緒の安定を図ること ②遊びを通しての自主性、社会性、創造性を培うこと ③子どもが宿題・自習等の学習活動を自主的に行える環境を整え、必要な援助を行うこと ④基本的な生活習慣についての援助、自立に向けた手助けを行うとともに、その力を身につけさせること ⑤活動状況について家庭との日常的な連絡、情報交換を行うとともに、家庭や地域での遊びの環境づくりへの支援を行うこと ⑥児童虐待の早期発見に努め、児童虐待等により福祉的介入が必要とされるケースについては、市町村等が設置する要保護児童対策地域協議会等を活用しながら、児童相談所や保健所等の関係機関と連携して対応を図ること⑦その他放課後における子どもの健全育成上必要な活動を行うことである⁶⁾。

(5) 先行研究

渋谷氏は、放課後児童クラブと小学校との連携の必要性は認識されている一方で、実際にはそのための体制及び手法について体系化されていないことを述べている⁷⁾。関谷氏他は、放課後児童支援員は、子どもにとって「教員」でもなく、「親」でもない、身近らの生活や育ちを支えてくれる第三の大人になると述べている⁸⁾。嵯峨氏等は、おやつには栄養補助と正しい手洗い方法や食事でのマナーの基本生活を身に着ける役割があることを述べている⁹⁾。岡崎氏は、学童保育の利用料、支援員の処遇改善、事業を実施する施設の確保の課題を述べている。少子化に対応して小学校の統廃合が

進んでいけば余裕教室を失う可能性がある」と述べている¹⁰⁾。小柳津氏は、障がい児の受け入れについて述べている¹¹⁾。菅原氏は、ミーティングの時間の少なさと研修不足を述べている¹²⁾。布施氏他は、放課後児童施設の職員の学びのニーズを設定すると共に、児童支援員に対する支援的な関わりの方的な展開の必要を述べている¹³⁾。

2. 研究方法と目的

(1) 研究方法

1. 筆者はA市の人権・男女共同参画課の審議会委員、環境課の審議会委員のため、環境生活部長に、放課後児童クラブの調査の許可を依頼した。
2. A市の放課後児童クラブは、教育委員会に属するので、生涯学習課課長より、歴史、内容、運営等について説明を受けた。調査依頼の許可をお願いし、調査後の報告書の提出、倫理的配慮について説明を行った。
3. 生涯学習課青少年育成係より、7か所の調査を許可された。2021年2月、青少年育成係と放課後児童クラブ7か所を調査した。
4. 2021年3月、7か所の中の5か所において、開所から閉所まで指導員の補助として筆者が現地調査に入った。

(2) 目的

放課後児童クラブは全国的に増加しているが、学校側との関係性、指導員の不足と指導法、おやつ好き嫌いと食事のマナー、利用料等問題が多い。

三重県は、日本の真ん中にあたり、森林率も平均に近い地域である。A市は、海から山に東西に長く、過疎地域も含む地域であり、平均的な地域と言える。この地域の各施設の指導員の様子、児童の日常生活、学校側とのやりとり等の現状を調査することで、さらに放課後児童クラブが子どもたちの健全な育成に貢献できると考える。

(3) 倫理的配慮

放課後児童クラブの調査では、事前に市役所の職員と訪問し、指導員や児童への倫理的配慮をす

ることを伝え、保護者から調査の許可をいただいた。後日、開所前から閉所までの施設、指導員、児童の現状を記録した。調査結果は個人を特定しないものである。報告書はA市教育委員会生涯学習課課長に検閲をしていただいた。そして、投稿するものである。

3. 調査結果

(1) A市主催のアンケート調査結果

三重県では子ども・福祉部少子化対策課幼保サービス支援班が管轄する。市町村では福祉課や教育委員会と管轄が相違する。A市では、教育委員会の生涯学習課の管轄である。

A市においては、1997年より保護者からの希望で放課後児童クラブは始まった。2016年までは委託契約であった。しかし、保護者からの苦情が多く、2017年主体が市に変更された。さらに、労務管理が難しく、委託から補助に変更された。そのため、保護者が業務委託できるようになった。

2014年に市内26校区に31クラブを設置し、利用児童数は877人であった。A市は「公設民営」の実施形態をとっている。2020年度は40クラブ、13クラブが社会福祉法人の運営、27クラブは保護者の自主運営である。

2015年から3年生までが6年生までに変更になったが、低学年優先である。建物は、児童1人につきおおむね1.65㎡以上とし、基準以下である。新興団地は人数が多くなり、クラブを2か所にした。1施設に指導員は2人以上で、1人は指導員の資格が必要である。

資格取得は、三重県庁で指定日1年に1回4日間の講習が必要である。津市と四日市市等の政令指定都市では各自治体でも講習があり資格が取得できるが、それ以外の自治体ではない。そのため、資格取得が難しい。それに加え、指導者不足と退職者が多い。また、知能障害や精神疾患の児童の増加があり、さらに指導者育成が難しい状況となっている。

2014年のA市のアンケート調査は、児童向け940部、保護者向け940部、指导向けは260部である。回収は児童向け561部で回収率は59.1%、保護者

向け 485 部で回収率は 51.6%、指導向け 120 部で 46.2%である。

児童向けの結果では、放課後児童クラブに来るのが「とても好き」は 28.5%、「好き」は 26.2%、「普通」は 40.3%、「あまり好きでない」は 3.7%、「好きでない」は 1.1%であった。半数が好き、半数が好きではないという。「同級生の友達がいらない」「親があつまって楽しんでいるだけで、自分の子どものことは言わず、人の子どもの文句ばかり言う」「先生の在り方が問題で、頭ごなしに怒るのが嫌」とある。「ドッチボールが好き」「鬼ごっこやサッカーが好き」「本を読むのが好き」とある。おやつでは、「プリン・ゼリーが好き」「チョコレートが好き」とある。「遊び道具を増やして欲しい」「建物を広くしてほしい」「友達と遊ぶ行事を増やして欲しい」「おやつを充実して欲しい」とある。

指導員向けの結果では、「子どもが好きだから」「週 4～5 日勤務」「3～4 時間勤務」「月 6 万未満」と回答した指導員が多かった。

保護者向けの結果では、「就学前は保育園を利用していた」「19 時まで開設して欲しい」「6 年生まで利用したい」と回答した保護者が多かった¹⁴⁾。

(2) 実地調査

放課後児童クラブの開所時間から閉所までの時間の中で、指導員の補助として指導を行い実態調査を行った。指導員の保育や指導に迷惑がかからないように、児童には「放課後児童クラブに来るのは楽しいか」と口頭で質問した。指導員には「困っていることはないか」と口頭で質問した。保護者にはお迎え時に「放課後児童クラブはどうですか」と口頭で質問をした。

(3) 調査結果

A. 【旧市内】I 小学校区 延べ面積 78.61 保育室面積 50.00 2020 年 4 月開所

①施設

保護者会の運営のため、会長 1、副会長 2、書記 1、会計 4 人とし、みんなで協力し合うことになっている。平日 14 時～18 時半、土曜日 11 時～18 時半、長期休暇中 7 時半～18 時半まで、平日 198 日、土日祝日 9 日、長期休暇中 43 日で 250 日開所

している。月 8000 円、夏休 5000 円、冬休・春休 2000 円である。延滞料金は、1 分でも超過したら 1000 円である。100 円という意見もあったが、そうしないと平気で遅れてくるということで 1000 円に保護者会で決定した。19 時までには指導員が待機している。

学校から施設までは徒歩 3 分、周りは幼稚園と田畑で、学校の前の道は車の往来はほとんどない。

現在は、倉庫を借家している。2 年後、小学校の空き部屋を使用する予定である。補助金で月 10 万円の使用料を支払っている。倉庫の為、玄関も狭く、靴とヘルメットを置くのもギリギリである。保育室も狭く、寝転がるなどの空間はなく、机のそばで騒ぐしかない。静養室はなく、事務机と手洗い場と冷蔵庫を置くスペースが少しあるだけである。トイレは 1 つである。窓の下は道路の為、避難経路は玄関ドアと奥の物置場からの非難となる。物置場には物が多く、通路を通るのは難しい。また、通路奥のドアは鍵が大家により閉鎖されているので、非常口としての利用は難しい。行事は、誕生会とお別れ会がある。

指導員は 5 人、平日は 2 人で交代である。主な指導員は、3 か所の放課後児童クラブで勤務してきたベテランの 72 歳である。

指導員の見習い中は時給 850 円である。指導員の資格取得後は 5 年経過すると月 10,000 円プラスされる。10 年以上は月 30,000 円プラスされる。長期休暇中はアルバイトが 2 人いる。今月で退職する指導員もいる、なかなか指導員が集まらないのが悩みである。

下校の 30 分前に 1 人早出で掃除と消毒をする。保育中には、おやつの前後に消毒や換気をする。15 時 45 分、玄関マット等玄関の掃除を始める。18 時 5 分トイレの掃除をする。保育中、日誌やおやつノート等の記入が非常に多い。

宿題の指導に関しては、「勉強は基本見ない」「年代の教え方は違うので、私たちと学校では指導方法が違う場合がある」「九九や音読の宿題は、親がどのくらいできるか知らなければならないので指導はしない。また、全部できなくて良い」という方針である。

コロナ禍で、学校での水泳時間がないので、夏

休みの時に、短期水泳教室に全員が参加した。そのため、バスが止まる場所まで指導員が送迎をした。

②児童のある一日

1年生4、2年生9、3年生2、4年生4の19人で、高学年はいない。

14時25分、「ただいま」と一年生が2人が帰ってきた。それから、「ただいま」の音が続いた。忘れ物をした児童が2人学校に戻って行ったが、すぐに帰って来た。

玄関に靴とヘルメットを置き、水筒は籠に入れる。消毒とうがいをして机に向かい、宿題をする。宿題は生徒同士で教え合う。邪魔をする子もいるが、人数が少ないので、数分間で落ち着く。高学年がないので、30分ほどで宿題も終わり、おやつとなる。手を洗い、並んでおやつをもらう。籠から水筒を持ってきて、児童は机に向かう。「手を合わせましょう」と代表の子が言うと静かになる。「いただきます」とおやつが始まった。ゼリーと袋菓子で、コロナ禍に気を付けた個別包装である。本日のおやつが気に入らない児童は、昨日までのおやつと交換してもらえる。しかし、何度も交換に来る児童も多く、おやつ配布に時間がかかっていた。アレルギーの問題だけでなく、好き嫌いが多く、おやつ購入は難しい。おやつ代も料金に含まれているため、指導員は購入に悩む。

1人の男の子が他の子の水筒をゴミ箱に捨てる。「なんで、こんなことをするの?」と指導員が拾い、注意をした。次に、別の子が机の上に座るので「机の上には座らない」と注意をしたが、また他の机の上に座る。今度は2人がお菓子を持ってあちこち歩くので「きちんと食べよう」「座って食べよう」と注意をした。

児童はおやつを食べ終わると、ゼリーの入れ物はゴミ箱に各自で捨て、スプーンは流し台に置く。うがいをプープとする男の子がいて、「今は駄目でしょう」と指導員は注意をした。15分ほどでおやつ時間は終了した。

走り回る男の子たちがいるが、倉庫で狭いのとトタン張りのためドンドンと音がする。次に、数人の児童が紙飛行機を作りはじめ、飛ばし合う。すると、鉛筆を他の子に投げる男の子がいて、指導

員は事務ベースにあるソファに座らせ、注意を始め、その後指導員は膝の上に座らせ注意をした。指導員は愛情と注意を注いでいた。児童も指導員に甘えたいようであった。指導員は先生でも母親でもないが、ほっとする空間を与えていた。

近くの公民館に書道を習いに行く児童が5人いる。「用意をして」と指導員に言われ、歩いて5分で5分程の公民館に向かう。途中で市道の交差点があり、少し危険であった。4人は16時半に戻るといふ。1人は保護者が直接迎えに行く。

残っている児童はレゴや折り紙でしばらく遊んでいた。15時45分、指導員から「学校の運動場に行くよ」と片付けを指示される。しかし、児童はなかなか片付けをしない。「16時に出来なければ外遊びは今日はやめるよ」と言われ、やっと児童は片付けを始める。児童はボールを持ち、小学校の運動場まで歩いて行く。ドッチボールは学年に関係なく遊べるという。外遊びに指導員1人が付き添う、施設に残る児童のために1人が残る。4年生の男の子がじゃんけんをさせてみんなを引っ張ってドッチボールを始めた。運動場では、72歳の指導員も入り、ドッチボールをした。

10分後、残った4年の女の子と指導員も運動場に来る。しかし、女の子はドッチボールは嫌だとブランコを始める。16時半に全員が施設に戻る。その途中で、書道に行っていた児童も帰って来たので、一緒に施設に戻る。3年生の女の子が、「2段になった」と書状を持ってきたので、「おめでとう」とみんなで祝った。

16時45分、保護者の迎えが始まった。母親が多く、祖父、祖母の迎えもあった。鍵のかかったドアのため、インターホンが鳴ると、指導員が玄関に行き、1人1人保護者と話をして見送る。18時5分会長が最終の迎えと指導員からの報告を受けた。

③児童、指導者、保護者の意見

運動場で、4年の女の子がドッチボールは嫌だとブランコに行くので、「ここは楽しい」と聞いてみると、「普通」と答えた。「昨年までは、おじいちゃんもおばあちゃんもお父さんもお母さんも会社にいるから、そこに帰って、いつもユーチューブを見て終わるのを待っていた。今年になり、1年生の弟と一緒にここに入れられた。夕方、おばあ

ちゃんかお母さんが迎えに来るまでここにいるだけ、それから毎日そろばんや公文やピアノに行く。帰るのは19時過ぎ、夕飯は19時半から20時になる」と話した。

女の子2人に聞いてみると、「ここは友達がいるから楽しい」と答えた。男の子3人に聞いてみると、「楽しくない、めんどくさい」「ゲームができない」と答えた。

書道教室に行く児童たちを筆者が送って行く途中で、女の子が「行きたくない、みんなと運動場で遊びたい」と話をしてきた。

指導者は、「常時2人なので、学校の運動場に連れて行くことが難しい。残りたい子がいたり、調子の悪い子がいると行けない」「指導員が集まらない」「私は70歳を過ぎている。年齢の高い人ばかりになりやすい」「前に騒ぐ難しい子がいたが、保護者も自分の子が騒ぐことが信じられないようで、大変困ったことがある。転校してくれたので、今は落ち着いている」「外遊びの後は、児童はストレスが解消されるのか、落ち着いてくれるので、外遊びには連れてやりたい」と話した。

保護者は、「狭くて、人数も少ないが、ベテランの指導員さんのおかげで助かっている」「指導員の年齢が高いので、将来が心配」「今月1人辞められる、指導員の確保が難しい」「将来の指導員を育てて欲しい」と話した。

この施設は、倉庫ということで環境的には問題があり、人数制限があるので、高学年は入所できない。また、指導員がすぐ変わるという問題があった。おやつが好き嫌いが指導員の負担になっていた。しかし、生活面の指導や心のケアができていた施設であった。



倉庫



玄関



事務ベース



保育室



運動場



窓の下

B【旧市街】T小学校区 延べ面積 57.27 保育室面積 40.14 2004年4月開所 専用施設(学校敷地内)

①施設

保護者会の運営のため、会長1、副会長1、書記1、会計1、指導員給料計算係10、ごみ係5(平日、夏休前半、後半、冬休、春休)、利用希望表係1、集金係、監査員2である。3年前から会計事務所に給料は任せている。会長、副会長、ゴミ係は毎日寄り、連絡を取る。平日14時半～18時、長期休暇中8時～18時まで、平日241日、土日祝日0、長期休暇中40日で241日開所している。入会費7000円、月1・2年9500円、3・4年7000円、5・6年5000円、夏休6000円、冬休2000円、春休4000円である。おやつ代は1000円で毎月別袋で指導員が集金する。児童13人の他に、朝だけ預かり保育の児童が6人いる。

専用施設が学校敷地内の隅にあるので安心である。以前は学校の体育館に在った。小学校の横に幼稚園があり、道を挟んで保育所がある。反対方向は畑が一面に続く。静養室はないが、洗濯室、流し台、トイレ2が備わり、椅子の机と座る机がある。

主な指導者は保育士を辞めて、開所時から勤務している16年のベテランである。主婦がバイトに簡単に来てくれるが、すぐに辞めてしまう。指導員になる人がなく、次の人が育たない。

指導員は6人で、常時2人である。早番があり、下校30分前に来て、掃除や消毒をする。遅番の人は14時50分に来る。しかし、おやつや日用品の購入をして来るので、それ以上の勤務時間になっている。日用品の整理に、おやつ管理が始まった。おやつ在庫などの記入が詳細に書かれていた。1日50円でアレルギーだけでなく、好き嫌いを考えなければならない。

椅子用机と座敷机がある。トイレは2つ、洗濯室と流し台室がある。冷蔵庫は保育室に出ている。非常口は、広い入り口だけだが、棚に登れば窓から運動場に飛び降りられる。

外遊びは児童だけで遊び、指導員は窓からの見守りで、残っている児童を見守る。その間に、指導員はまたおやつ管理を記入する。児童の出席表や日誌を書く。行事は誕生会とさよなら会で、アイ

スクリームやケーキを食べる。ノートと鞆を送ることになっており、当日前に児童に選ばせている。

18時閉所なので、保護者が迎えに来ない場合、電話をする。特に、祖父や祖母の人は迎える日と向かえない日があるので混乱しやすい。追加料金は無い。

宿題は帰るまでに終わらせることになっている。児童に音読をさせ、指導員がノートにサインをする。勉強も指導している。

17時10分、指導員は金曜日だからとタオルの洗濯を始めた。金曜日は文房具やキッチンペーパーの管理、遊び道具やボールの空気入れ等いろいろの物の整理がある。月末だったので、おかし代の集金もあった。

②児童のある一日

1年生4、2年生4、3年生5の13人で、高学年はいない。

14時50分、1年生の女の子1人、男の子2人が「ただいま」帰ってきた。それから、2年生の女の子1人、男の子2人が帰って来て、15時に4人と続いた。

帰ると、各自宿題を始めた。音読になると、指導員の前で各々本を読み始めた。そして、指導員からサインをもらっていた。宿題の指導も受けていた。宿題が終わると、折り紙や読書を始めた。

15時半、おやつを並んで選ぶ。袋菓子がいろいろあり、選ぶことができる。好き嫌いが多く、選ぶようにした。児童は、かつてに食べ始めていた。みんなが揃っての「いただきます」はなかった。おやつ時間は15分であった。

15時45分、外遊びの時間になった。児童は外の倉庫からボールを出しサッカーを始めた。鬼ごっこ、ブランコに児童は分かれて行った。

16時、祖父の迎えがある。祖父から「孫の様子はどうか」と聞かれ、指導員は何のことか分からない。今日学校で調子が悪く保健室で寝ていたと連絡があったらしい。放課後児童クラブには学校から何も連絡がきていなかった。何事もなかったが、連絡が欲しかった。この2年生の女の子は、週2回そろばん、週2回剣道、英語に行く日は祖父が16時に迎えに来るといふ。女の子は2人なので、1人帰ると残った女の子は寂しそうだ。

16時10分、祖母の迎えで1年生の女の子がプールに行く。プールのない日は16時半に迎えにくるという。他の子もプールに行く日は16時前後に祖父や祖母が迎えにくる。

16時25分、男の子が運動場から入ったり出たり始めた。お迎えが気にかかるようだ。

16時40分から保護者が次々と迎えに来る。父親の迎えも2人あった。指導員が1人1人見送る。

17時15分、4人でテレビを見始めた。

17時45分、ゴミ係の保護者が迎えの最後となった。金曜日なので、ゴミ袋を提げて持ち帰りをした。

③児童、指導員、保護者の意見

サッカーやブランコをしていた男の子4人に、「ここは楽しい」と聞いたところ、「普通」と全員からかえって来た。「友達が少ない」「学年で僕1人しか来ていない」「家にいるよりはまし」「家なら、プレステやゲームができるのに」と話した。

小学校の全児童数を調べると、1年15人、2年23人、3年26人であった。2021年度の放課後児童クラブの希望は、1年3人、2年2人、3年4人の9人の児童になる予定である。コロナ禍で、家にいることができると保護者は思い直し、放課後児童クラブの児童数は減少した。地方でも、祖父や祖母が家にいる人は少なく、働いているので留守家庭が多い。「かぎっ子」になるのは不安が残る、特に冬場は心配である。

指導者は、「開所した昔は、保護者から感謝されていたが、10年ほど前から当たり前になってきて、特に3年前からひどい状態」「親の休日の日も子どもと時間を共有することもなく、1人や夫婦で遊びに行くようになった。児童の方が寂しい思いをしている」「保護者と児童の連絡ミスがあり、児童が自宅に帰ったり、児童クラブに来ていたりすることが多いのが心配」と話した。自宅まで徒歩で30分以上かかる児童もいるので、行ったり来たりは危険が伴う。

保護者は、「母親に頼まれた日は迎えに来る」と祖父や祖母が話した。

この施設は、開所が早く、保護者にとっては低学年は見てもらえる当たり前場所になっていた。指導員は、外遊びも窓からの見守りになり、宿題

をみることに、日誌やおやつノート等の記入時間や片付けに多く時間を費やしていた。おやつを購入等で時間外の勤務があった。学校からの児童の体調の悪さを放課後児童クラブに連絡がないのは問題である。



運動場の端に施設



保育室



保育室



運動場



周囲



ゴミの持ち帰り役員

C【旧市内】S小学校区 延べ面積 109.91 保育室面積 96.16 専用施設（学校敷地内）2001年8月開所

①施設

保護者会の運営のため、会長1、副会長1、書記1、会計1となっている。平日14時～18時、長期休暇中8時～18時まで、平日199日、土日祝11日、長期休暇中42日を入れ252日開所している。入会費5000円、月1・2年8000円、3年以上6000円、夏休5000円、冬休2500円、春休2500円である。

学校敷地内に幼稚園、隅に放課後児童クラブの専用施設がある。畳の静養スペースがあり、事務室、流し台、トイレ2が備えてある。

主な指導者は、立ち上げた20年前から勤務しているベテランであった。20年前は補助金もなかったので、冷蔵庫もレンジも保護者で購入した。今は、最初に補助金が100万円出る。

時給を20円上げたが、指導員が集まらない。1人最近見学に来てくれたが断られた。ここは、支援児がいるので本来は指導員3人必要だが、現在2人しかいない。

②児童のある一日

1年生13、2年生17、3年生7、4年生2、5年生2、6年生0の40人である。

14時、指導員2人は掃除や消毒をする。おやつ

の相談をする。全国のおやつを取り寄せて、児童の楽しみを持たせている。

14時50分、1年生の女の子が2人帰って来た。「お前、だれ」「お前、だれ」と筆者に向かって言う。「おかえり」と筆者が言っても、「ただいま」はない。その後も、児童は帰ってくるが「ただいま」はなく、鞆をロッカーに入れることもなく、ロッカーの前にほっていく。

1年生の2人の男の子が宿題をして、机の上で駒遊びを始めた。指導員が、「そこは高学年の机だから、こっちの机でしなさい」と注意をした。一番前の机で始めたら、1年の女の子が、筆者に「お前もしろ」「お前もしろ」と言いはじめ、数人の女の子が、「お前もしろ」と何度も言い出した。

宿題が終わった児童は、絵本、折り紙、工作、おじゃみ、レゴ等の遊びを始めた。指導員は、2年生の児童のノートに九九の表を書いていた。保護者から宿題はさせて欲しいという希望がある。

次は、男の子が、机の上をポンポンと当たり前のように飛び移動していた。指導員から注意がない。

16時、5年生が帰って来た。宿題を始めたが、ちょいちょいとしていた。丁寧にするというのではなく、終われば良いというようであった。

16時5分、コロナ禍のため1人早く迎えに来る。

16時15分、指導員が「片付けるよ」と机の上の玩具等を片付けはじめ、消毒をする。各自何も言わずに冷蔵庫からアイス1つを取り、学年ごとの籠から袋菓子を1つ取って、各自食べ始めた。みんなが揃っての「いただきます」はない。

16時20分、お迎えが5人続く。いつもなら、16時30分から外遊びであるが、雨のため外遊びがない。指導員は続けて宿題をみて、九九の表を書いている。宿題が終わった児童は、プラ板、折り紙、レゴ等で遊んだ。男の子が机に乗り、騒ぎ始めた。机の上を走り回る。騒ぐ児童も多いが、指導員は宿題を見るのに忙しく、注意しない。

16時35分、マスクを付けていた女の子が、「切れた」と指導員に言って新しいのをもらう。ここでは、「マスクをつけよう」と紙に書いて張られているが、マスクを付けていない児童がいる。付けていても顎に浸けている児童も多い。指導員からの注意はない。

17時20分、11人児童がいる。テレビをつける。まだ、宿題ができていない児童があるので、指導員が続いてみている。指導員は九九の表を書くのに追われている。

18時、会長が迎えにくる。指導員から報告を受ける。

③児童、指導員、保護者の意見

児童は、「楽しくない」「いろいろ、作れるので楽しい」と話した。高学年の児童からは返答はなかった。

指導員は、「児童の対応に毎日悩んでいる。おとなしい子もいるが、暴言を吐き、騒ぐ子どもが多い」「家ではおとなしい子もここでは騒ぐ子どもが多い」「家ではおとなしい子もここでは騒ぐ子どもが多い。そういう子の親は自分の子どもの本当の姿が解っていない」「土日に自分の子をしっかりと見ている親もいるが、見ていない親も多い」「1年ごとに会長が変わるので、考え方が変わる。指導員と考え方が違うので、我慢するしかない」「バイトで助けてもらって20年間やってきた」「親がゲーム漬け、子どももゲーム漬けが多い、この10年ひどい」「夏休みの6時間勤務は本当に大変、辞める人の気持ち解る」「ゲームは禁止しているが、タブレットの導入でどうなるか心配」「母親は宿題をさせたいとアンケートでの回答が多い」「保護者は、夜中でも文句を言う」「児童の言動に怒ったら、文句を言う保護者がいる」「言葉遣いが悪い児童が多い」「保護者は、家で子どもに早く寝ろしか言わない」「もっと自分の子どもをみないといけない。子どもは、親にかまって欲しいのだと気付いてほしい」「疲れて宿題が見られないので、見れる分は見ている」「指導員の研修が少ない。市役所では解らない。どのような時にどうするかマニュアルが必要」と話した。

保護者は、「放課後児童クラブがあって助かっている」「指導員が集まらないので困っている」「5年後、指導員がいなくなる」「市役所はもっと人材を探して欲しい」と話した。

この施設は、支援児がいるにも関わらず、指導員が2人しかいなく、指導員の確保ができていなかった。指導員は、児童の生活面の指導よりも宿題を見ることが中心になっていた。九九の表は印刷するか、学校側から配布している所もある。わざ

わざ児童のノートに保護者の代理で表を書き、宿題を終わらせることに集中することは指導員としての役割に欠ける。特に、児童の言葉、行動、片付け等基本的な指導が必要な施設であった。指導員の確保ができないため、誰でも良いということでは、保護者が安心して預けられない。指導員の研修が不足している。



運動場の端に施設



保育室



ロッカー



九九の表に追われる指導員



運動場



施設前の幼稚園

D【過疎地域】K・N小学校区 延べ面積 115.93

保育室面積 60.93 2004年6月開所

①保護者会 専用施設（学校敷地内）

2つの小学校から児童が集まる。G小学校は新しい校舎ができたばかりである。その運動場の端に存在する。玄関も広く、手洗いペースがある。昼の静養室で高学年の女の子が宿題をしている。料理室が広く、お菓子の手作りができるようになっている。事務室、洗濯室、トイレ2、バランダが備えている。

Y小学校からは、スクールバス2台に乗ってくる。低学年のみで、2回集合時間がある。過疎地域の為、Y小学校は廃校予定で、将来G小学校に統廃合されることになっている。G小学校の全児童数は、1年生9、2年生16、3年生14、4年生18、5年生16、6年生15の88人である。Y小学校は、1年生8、2年生14、3年生18、4年生17、5年生11、6年生12の80人である。A市は人口減少が進んでいて、市内の小学校でも児童数が減少している。過疎地域ではさらに減少傾向が強い。

平日下校30分前～18時35分、長期休暇中7時30分～18時35分まで、平日198日、土日祝日19日、長期休暇中41日で258日開所している。入会

金 3000 円、1～4 年生が 5000 円、5 年生以上が 4000 円である。

指導員は 9 人で、支援児童がいるので常時 3 人である。長期休暇中は、高校生や専門学校生がアルバイトにきて、準備や児童の勉強をみている。1 人のアルバイトは高校生の時から来ていて、専門学校に進んでからも来てくれている。時給 880 円から 950 円になったという。

主な指導員は、元保育士でベテランである。また、午前中は病院の事務員の指導員もベテランである。元保育士がピアノを寄贈したので、他の施設のような卓上ピアノではない。児童がいつもピアノを自由に演奏している。

畳の休憩室がある。保育室は寄贈された電気カーペットが 3 つひいてある。ベランダもあり、児童はそこでも遊ぶことができる。

保育室の壁には、児童の顔写真や紹介、児童の作品、指導員手作りの飾りなどが壁のあちこちに飾られていて、ほっとする空間を作っていた。

行事は誕生日会、お別れ会、水鉄砲大会などイベントを 9 回している。以前は、おやつもドーナツやサツマイモ等のお菓子を全て手作りしていた。しかし、コロナ禍で袋菓子に変更した。

今回、誕生日会に訪問した。児童への購入したプレゼントをそのまま渡すのではなく、プレゼントする物を入れる鞆や色紙が手作りされていた。また、ゲームをしてからの首から掛けるメダルも全員手作りされていた。各指導員が家で心を込めて手作りをしている。

② 1 年生 G 学校 5、Y 学校 1、2 年生 G7、Y1、3 年生 G7、Y4、4 年生 G6、Y2、5 年生 G3、6 年生 0 の 36 人である。今年、コロナ禍で 1 人でも家に留守番できると保護者が感じて辞めた児童が多い。プールやそろばんに行く児童は早く帰って行く。

15 時、1 年生が「ただいま」と帰って来た。その後も「ただいま」が続いた。バスで送られて来た児童も一緒になった。玄関で手を洗い、消毒をして、指導員が体温測定をする。各自宿題を始める。アルバイトの学生に宿題をみてもらう。

平日の晴日はドッチボールを指導員としている。雨日はブラバンの練習をする。また、テレビ

も見ることができる。

手作り遊びが流行っていて、男の子は割りばしで鉄砲を作り始めた。また、プラ版づくりに夢中になる児童もいた。1 年生の男女が駒遊びを始めた。支援の必要な児童は筆者のそばに来て甘えた。

4 年生の男の子が、児童全員の玄関の靴を綺麗に整理して入って来た。自分の意思でそれができる児童に驚いた。親のしつけと指導員の心がけのためのものであろう。16 時、高学年が帰って来た。

本日は誕生日会なので、しりとりゲームをして、おやつシュークリームを食べ、4 人の誕生日をお祝いした。4 年生の女の子が機嫌が悪く、「宿題がある」と言って、なかなかみんなの中に入らない。そばにアルバイトの女の子が寄り添って、誕生日が始まった。その後ベランダでシュークリームを食べて、なかなか宿題をしようとしめない。帰りまで機嫌が悪かった。

16 時 30 分、お迎えが始まった。母親、祖父、祖母の迎えが多く、指導員と話をしてから帰って行った。しかし、一言も話もせず、子どもを呼んで帰って行った母親もいた。

近所から大根が大量に届けられ、おもしろい大根を玄関に飾りみんなで写真を撮った。大根は保護者に配布された。筆者にも配布された。

17 時 5 分、13 人児童がいる。17 時 45 分、10 人児童がいる。18 時最後の 1 人のお迎えがない。指導員は祖母が 18 時に迎えにくる予定だと電話をかける。祖母は「忘れていた」と 18 時 15 分に迎えに来た。指導員は掃除や消毒をして 18 時 37 分に勤務が終了した。

しかし、コロナ対策のビデオ中継が 19 時からある。家に帰って、また来るのはたいへんと、指導員は施設で待機した。コロナ禍で、指導員に負担がさらにかかっていた。

③ 児童、指導員、保護者の意見

児童は、「楽しい」「いろんなお菓子が出る」「いろんな楽しいこともある」「手作りで玩具が作れる」と話した。

指導員は、「自分 1 人の指導員になって欲しい児童が多く、指導員の取り合いになっている。児童はみんな寂しい」「口の利き方が悪い児童、手足の出る児童がある」「おんぶをして欲しい児童が多い」

「ありがたい一言もない母親がいる」「おやつもみんなで16時に食べるのではなく、自由に早く食べさせてくれという母親がいる、困ってしまう」と話した。

保護者は「大変助かっている」「指導員さんがベテランで安心して預けられる」と話した。

この施設は、過疎地域に存在し、地域ぐるみで大切な場所という存在感が強く表れていた。2つの学校からの集まりであったが、みんなが仲良く過ごしていた。宿題や勉強はアルバイトに見させ、指導員は挨拶や片付けなど児童の生活面や精神面に気をつけ温かく見守っていた。そのため、他の児童の靴を揃えたりする思いやりのある児童が育っていた。施設の飾りつけや誕生会の用意等、指導員が率先して家で作ってきていた。コロナ禍がはやる前までは、おやつもケーキも手作りで作っていたそうである。元保育士が先頭になり、この施設を大切に育てていた。



小学校に隣接する施設



児童が揃えた靴



おんぶされる児童



誕生会



バス



新しい小学校

E【合併後】H小学校区 延べ面積 160.27 99.00 保育室面積 113.92 70.95 専用施設（学校敷地外）元幼稚園の施設 2003年4月保護者会運営でスタートしたが、保護者の負担が多く、2018年4月から一般社団法人M育成会に依頼した。

①施設

統廃合された元幼稚園の施設を改修したが、児童の増加で施設を増築した。小学校からは3分ほどのところにある。道はほとんど車が通らないので安全である。施設内には広い運動場と遊具が残っている。周りは田畑である。旧施設の保育室には長机と丸机が置かれ、流し台と大きなおやつを食

べる部屋、事務室、事務カウンター、トイレ2が備えてある。新施設は畳の静養室、広いロッカーペース、トイレ2、座机が置かれた保育室、個人の時間を持てるように遊びペースにはテントが3つ備えてある。

平日下校30分前～19時、長期休暇中7時30分～19時まで開所している。入会金5000円、平日月1～4年10000円、5年9000円、6年生7500円である。土曜日500円である。豆腐や豆類のおやつをだしているが、現在コロナ禍でおやつは中止している。おやつ代1000円である。夏休5000円、冬休2000円、春休3000円である。延長料金は、17時30分～18時30分月1000円である。また、1回は500円である。

指導員は常時旧施設に3人、新施設に2人で5人である。

掃除・消毒は補助職員（指導員以外）が30分前からしている。指導員は週4日以上職員からなる。指導員の指導に元幼稚園教諭の副理事が月に数回指導に来る。

指導員は児童と同じ目線になるように座ることを指示、児童の勉強は指導せず、一緒に遊ぶこともせず、見守ることが大切だと指示されている。児童に注意するときも2人だけで話すことも支持されている。この法人では、指導員は、児童にも敬語を使用し、謙虚に謙虚に言動を注意し、丁寧な児童の扱いをする方針である。行事は一切なし、毎日の生活が大切で、行事のない日はつまらないと思わせないという。

17時、新施設は閉鎖時間のため、掃除して閉鎖された。

②児童のある一日

旧施設の1年生26、2年生28、3年生6、4年生4、5年生1、6年生1人で66人である。新施設の1年生0、2年生1、3年生14、4年生は4、5年生0、6年生3で22人である。今年はコロナ禍で40～50人ほど少ない。支援児童は3、準じる児童が8で11人である。

14時30分、児童が2人、3人、8人と下校すると、新施設に入り、消毒をして、靴をきちんと脱いで、ランドセルをロッカーに入れる。3年生以上はそのまま、新施設の机に向かい宿題をする。1・

2年生は、靴を履き、旧施設に入り、熱を測り、机に向かう。宿題をしてから、読書やゲームをする。

児童が「勉強はみてくれないのやろ」と筆者に聞いてきた。傍にいた指導員は「自分で宿題しよう」と座らせた。

この法人では、ドイツ式の保育を取り入れ、遊具もドイツ式の自分で考えるものを取り揃えている。ゲームは30分と決まっていて、児童は自分で時計を見て止めている。児童には、自己管理を指示しているという。

16時10分、運動場に出て遊ぶ。児童が指導員に「縄跳びを回して」と言うが、「自分たちで決めなさい」と言う。指導員は、縄跳びを回したり、一緒に遊ぶことをしてはいけない。児童が指導員に、「つくしが出たよ」とつくしを持って話をしてくれるが、指導員は動じない。また、一緒に物を作ることもしてはいけない。児童が筆者に折り紙を折ってプレゼントしてくれた。数分後、児童は渡してはいけないと注意されたようだ。ほとんど、指導員は児童と話をしない。

17時、外遊びは終了して施設でお迎えを待つ。指導員が入り口にランドセルをまとめて置いた。お迎えが始まる。母親、父親、祖父、祖母と迎えに来る保護者はいろいろである。

17時45分、8人児童がいる。17時50分、早番の指導員が帰る。18時20分、1人になる。18時35分、最終の迎えがあった。

③児童、指導員、保護者の意見

児童は、「普通」と話した。

指導員は、「保護者会運営の時の指導員は多く辞めたが、私はいろいろ教わる人が多いので続けて働いている」「指導員同士は仲が良い」と話した。

副理事は、「給料を103万までにしたい人が多い」「指導員が集まらない」「ポーとしている指導員が多く、児童を見ていない指導員が多い」「指導員同士の会話が長く、児童をしっかり見ていない」「LGBTの感じの児童が数人いるが、報告はないので対応を迷う。母親は認めたくないようだ」「精神的な児童の対応をすると、なんでその子ばかりと言ってくる児童がいる」「だっこしてと寄ってくる児童の対応が難しい」と話した。

保護者は、「助かっている」「役員もないので楽」と話した。

この施設は、保護者から運営を一般社団法人に変更したため、指導員は管理されていた。管理されたことで、見守りが主になり、優しさや愛情は感じられない指導員になっていた。元幼稚園教諭が管理しているので、施設にある遊び道具等はかなり揃っていた。利用料も高額になっているが、保護者にとっては役員をしなくていいのが利点になっていた。



左元幼稚園・
右増築施設



元幼稚園保育室



増築保育室



遊具がある運動場



ランドセルが
集められる



周囲畑

D【過疎地域】M小学校区 保育室面積79.92 保護者会 老人福祉センター内2階3部屋 2005年4月開所

①施設

A市での放課後児童クラブの最西端の最終施設である。市のセンターなので、家賃はいらぬ。小学校からも近いので安心である。土足のままなので、学校にいるような雰囲気、ほっとするペースはない。外遊びもなく、ホールで遊ぶだけである。長期休暇中のみ、小学校の運動場や近くの芝生公園に行く。

平日13時30分～18時、長期休暇中8時～18時までである。平日200日、土日祝日0、長期休暇中40日で240日開所している。入会金2000円、1・2年生5300円、3・4年生4300円、5・6年生3300円、長期休暇中8000円である。兄弟割引もある。

指導員は7人、常時3人である。

②児童のある一日

1年生8、2年生8、3年生5、4年生8、5年生6、6年生1の36人であるが、そろばん等の塾に行

く児童があるので、毎日の児童は24～25人である。2つの部屋に学年で別れて宿題をする。学校から帰ると、センター入り口で消毒をして、廊下の机にヘルメットを置く。部屋に入り、宿題をする。その後、読書をすることに決まっている。そして、おやつの時間になる。

18時、ほとんどが母親の迎いで、祖父・祖母はたまにしかいない。

③児童、指導員、保護者の意見

児童は、「楽しくない」「外で遊びたい」と話した。

指導員は、「言葉遣いが悪く、お前とか平気で言う児童がいる」「いやいや、なんで来なあかんのやと言われる」「会長の子もやぞとか言ってくる」「役員の息子だぞという偉そうな児童もいる」と話した。

この施設は、センターの中なので、児童は靴を履いたままなので、ほっとする空間はなく、保護者が迎えに来るまでの時間を過ごすための場となっていた。



老人福祉センター



2階通路
ヘルメット置き場



保育室



保育室



おやつ
の用意



運動室

E【旧市内】Z小学校区 延べ面積74.58 保育室面積74.58 Z小学校余裕教室

①施設

2017年4月から借家で月6万円で放課後児童クラブを開所していた。2019年10月小学校の空き教室に移動した。

保護者会で、小学校の1階の端の空き教室と廊下を改修して作られた。玄関と靴箱、トイレ、事務と台所ペースを作った。放課後なので、学校や教員とのかかわりはないと決められた。運動場側の窓に非常口があるので安心である。

以前は8000円が、4000円になった。夏休2000円、冬休・春休0円である。平日下校30分前～18時まで、平日199日、土日祝日12日、長期休暇41日で252日開所している。10分遅れたら100円、10分単位で延長料金がある。4回以上続くと1000円である。

以前は、指導員は6人で常時2人であったが、学校に移設され3人に変更になった。

②児童のある一日

1年生6、2年生6、3年生12、4年生4、5年生3、6年生0で31人である。

15時20分、18人児童がいる。校舎なので、児童は安心して移動してきた。敷物が敷いてあるので、座ることができ、ほっとできる保育室になっている。前が運動場なので、外遊びも安心である。

③児童、指導員、保護者の意見

児童は、「楽しい」と話した。

指導員は、「おやつの好き嫌いが多く、よく似たのは交換するが、文句が多くて困る」「保護者が自分の悩みを相談してくる。忙しいときも、くっついてきて困る」「母親の先輩として相談してくる保護者にどこまで相談にのっていいのか分からない」「女の子の言葉が悪くて困る」「女の子3人組で、はぶちんがあり、その子に付くと母親から苦情がきた」「みんな兄弟と思って育てているのに、保護者はそうでない」「母親がお嬢やでと、娘を特別扱いする」「母親が言葉遣いが悪く、1年生の女の子もまねをする。友達や兄を呼び捨てにする」と話した。

この施設は、学校の空き教室を利用したので、保護者が迎えに来るまでの安心できるペースになっていた。しかし、学校側は一切関与しないこととされていた。



校舎の端に施設



児童クラブ専用入口



靴箱



保育室



事務ペース



運動場

4. まとめ

児童の言葉遣いの悪さ、挨拶のできない児童、おやつ時でのマナーの悪さ、机の上に座ったり、飛びはねたり等生活面のしつけの悪さがどの施設でも問題になっていた。児童は放課後児童クラブに行くより、自宅でゲームやユーチューブを見ている方が良いようであった。関谷氏の述べるように、児童は指導員を親のように慕っている施設もあるが、宿題を見てくれる人としか見ていないような施設もあった。保護者は指導員に宿題をみさせ、音読を聞いてもらいサインまでさせ、九九の練習帳も書かせている。宿題の指導には、アルバイトを雇うべきではないだろうか。指導員の仕事の③子どもが宿題・自習等の学習活動を自主的に行える環境を整え、必要な援助を行うこととあるが、援助の範囲を超えていると考える。④基本的な生活習慣についての援助、自立に向けた手助けを行うとともに、その力を身につけさせることが不足してしまうと考える。

3年生から6年生までになったが、高学年は1人とかないため寂しいようである。また、低学年と一緒に落ち着いて勉強することもできない。別の部屋が必要ではないだろうか。保護者が毎日時間に追われ、子どもとの時間が少なくなっていることは理解できる。しかし、児童が指導員を独り占めしたり、膝の上で怒られたり、おんぶを迫ったりする機会が多いことを把握しているのだろうか。問題があると文句や苦情ばかり言うだけでは子どものためにはならない。夜中まで指導員に苦情の電話をかけるというようなことになっている。保護者は、指導員の苦労を理解し、言葉遣いや挨拶を含めた生活面でのしつけの重要性、児童の発達や心の隙間を埋めてやる時間、抱っこしてやる時間、おんぶしてやる時間の必要性に気づく必要があると考える。

嵯峨氏の述べるように、おやつ役割は重要である。指導員はアレルギーに配慮して購入しているが、好き嫌いが激しく文句が多いことも指導員の負担になっていた。「いただきます」という食事のマナーは必要ではないかと考える。

渋谷氏が学校との連絡を述べているが、学校と

教員との関係は無しということになっている。これ以上、教員の仕事を増やさないと考えている。しかし、体調の悪さはメモでも欲しいと考える。岡崎氏の述べるように、指導員の待遇の悪さから確保が難しいことは問題である。施設により料金が4千円から1千万までと差があった。

5. 今後に向けて

放課後児童クラブは、保護者からの希望で始まった施設である。しかし、時が流れ当たり前の保護者が多くなり、安価な時給で働いてくれている指導員に感謝の気持ちも薄れてきたようである。男女平等が叫ばれて久しいが、やはり家庭や子育ては母親が主流である。働く母親にとって、安価で安心して我が子を預けられる施設は放課後児童クラブである。指導員の研修をし、指導員の質を上げ、時給も上げ、指導員の確保が必須である。これは、保護者主体ではなく、自治体主体で行うべきと考える。

保護者運営から、委託する施設も増加している。役員や会議もなくなり、保護者はお金を払うだけで楽になる。どちらが良いかは筆者には決められないが、児童が健やかに育つことが最終目的であろう。

過疎地域では、小学校の児童の減少で統廃合が進んでいる。岡崎氏の述べるように、放課後児童クラブの存続にも大きく影響する。過疎地域ではバスでの送迎で児童の移動が始まっていた。

指導員も保護者からの苦情も多く、児童と保護者の間で悩むことが多い毎日である。児童の安全と育ちを見守るには、ストレスを解消する必要がある。布施氏の述べるように支援が必要である。「こんな時はこんな解決策を」とマニュアルがあればいいが、簡単に解決策はない。週に1～2回、相談できる人材の派遣が必要であると考えられる。そのことは、新しい指導員の確保にも繋がると考える。この調査が、少しでも今後の放課後児童クラブの活動に参考になることを望むものである。

注

1) 厚生労働省 放課後児童クラブ運営指針 <https://>

- www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11906000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Ikuseikankyoku/0000080763.pdf
- 2) 厚生労働省令和2年(2020年)放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の実施状況(令和2年(2020年)7月1日現在) https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15634.html
 - 3) 厚生労働省 2014年8月11日放課後子ども総合プランに関する自治体担当者会議【資料4】 <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000054560.pdf>
 - 4) 厚生労働省第4回 社会保障審議会児童部会 放課後児童対策に関する専門委員会 資料6-1 https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000192600.pdf
 - 5) 横浜市放課後児童クラブ事業補助金交付要綱 2006年3月2日第10191号(市長決裁) 最近改定 2019年10月17日第487号(局長決裁) https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kosodate/houkago-kids/hokagojido/20200214190246204.files/0001_20200221.pdf
 - 6) 厚生労働省 放課後児童支援員 <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000059715.pdf>
 - 7) 渋谷昌史「放課後児童クラブ-小学校>間連携の現状と課題:学校が参加する地域包括支援の開口部を探る」『関東学院大学人文学会紀要 = (141), 39-50, 2019
 - 8) 関谷みのぶ、堀美鈴「放課後児童支援員等の質の向上をめざした研修の方向性に関する研究—アンケート結果・内部研修からの再考—」『教育保育研究紀要』第6号、2020
 - 9) 嵯峨 美咲、松本 歩子、花輪由樹「学童保育での生活におけるおやつへの役割に関する研究」『平安女学院大学子ども教育学部紀要』2号、19-29、2018
 - 10) 岡崎圭子「函館市における放課後児童健全育成事業の歩みと現状」『函館短期大学紀要』46;99-104, 2019
 - 11) 小柳津和博「特別な支援を必要とする子どもの理解と対応に関する研究(2)」『桜花学園保育学部研究紀要代』19号;59-69,2019
 - 12) 菅原航平「放課後児童クラブにおけるOJTの実地状況と課題について」『別府大学短期大学部紀要』第39号;77-88,2020
 - 13) 布施 晴美、風間 文明、安田 哲也、長田 瑞恵、加藤 陽子「放課後児童クラブの職員の職務に対するやりがい「ストレス」「学びのニーズ」の実態」『十文字学園女子大学紀要』48(2), 29-38, 2018
 - 14) A市福祉事務所こども未来課 放課後児童クラブに関するアンケート 調査結果 2014年7月 <https://www.city.matsusaka.mie.jp/uploaded/attachment/11299.pdf>

参考文献

- 『学童保育ハンドブック 適切な運営の判断基準』全国学童保育連絡協議会 令和元年5月20日
- 『学童保育ハンドブック』全国学童保育連絡協議会 2006年4月20日
- 下浦忠治『学童保育—子どもたちの生活の場』岩波ブックレット NO.565
- 下浦忠治『放課後の居場所を考える』岩波ブックレット NO.701

